

### 豚の三元雑種の産肉性に関する試験

西原廣己・牧角一栄

(鹿児島県養豚試験場)

NISHIHARA, H., and MAKIJUMI, K.

Experiments on the meat production of three-way cross in swine.

鹿児島県は従来パークシャーのみを飼養してきたが、昭和36年春スエーデンからランドレースを導入以来、雑種造成が急激に増加してきた。そこでパークシャーを主体とした三元雑種を作り出し、その組み合わせによる産肉性を調査検討して肉豚造成の資料を得るため、昭和42年から4回にわたりこの試験を実施したので、その結果の概要を報告する。

#### 試験材料および方法

区分	組合せ	腹数	頭数	
対照区	一代雑種			
	B・L	6	31	
	L・B	7	28	
試験区	三元雑種	BL・W	8	43
		LB・W	5	32
		BL・H	2	10
		LB・H	5	32
区	戻し雑種	BL・L	2	8
		LB・L	1	4

供試豚は1腹平均体重の上下15%以内のものを用い、飼料は豚産肉能力検定飼料を群の平均体重によりL基準で給与し、水は自由飲水で豚舎は1腹分を群飼とし、デンマーク式豚舎に收容した。

試験は豚の体重が20kgに達した時開始し、個体が90kgに達した時終了し逐次と殺した。飼料の消費量および要求率の調査は群の平均体重によって調査し、体重測定は群の平均体重20kg以降1週毎に午前9時の食間に実施し、その他管理法や調査は豚産肉能力検定実施要領に準じて行なった。

#### 試験成績および考察

##### 発育成績と飼料の利用性

区分	組合せ	90kg日齢	所要日数	1日平均増重(g)	飼料消費量(kg)	飼料要求率
対照区	B・L	176.7	114.0	617.9	244.3	3.49
	L・B	179.4	119.1	589.4	259.5	3.71
	平均	178.0	116.4	604.3	252.5	3.60
試験区	BL・W	176.5	115.5	608.7	247.9	3.53
	LB・W	179.9	117.6	597.7	256.6	3.67
	平均	178.0	116.4	604.0	251.6	3.59
	BL・H	178.5	119.3	591.4	259.1	3.70
	LB・H	184.6	118.1	595.1	260.5	3.72
区	平均	182.2	118.4	594.2	260.1	3.72
	BL・L	163.9	105.9	660.6	228.8	3.28

発育については戻し雑種がすぐれ三元雑種のW交配区と一代雑種はほぼ同様な成績で、H交配区がやや劣る数値を示している。飼料の利用性に

	LB・L	182.0	118.0	594.5	256.0	3.66
平均	169.9	109.9	638.5	237.9	3.40	

いては発育と全く同じ成績であった。

##### と体成績

区分	組合せ	と肉歩留 %	背腰長 (H) cm	と体幅 cm	ロース断面値 cm <sup>2</sup>	背脂肪の厚さ cm	ハムの割合 %	赤肉の割合 %	と体審査得点
対照区	B・L	74.8	65.7	32.6	18.1	3.2	30.6	53.1	78.22
	L・B	74.5	65.2	33.3	18.2	3.3	29.8	51.9	77.45
	平均	74.7	65.5±1.6	32.9	18.2	3.2±0.3	30.2±1.2	52.4	77.92
試験区	BL・W	74.9	67.4	33.2	17.1	3.3	29.6	52.4	77.84
	LB・W	74.5	67.0	32.9	18.3	3.4	30.0	52.8	78.15
	平均	74.7	67.2±1.9	33.1	17.6	3.3±0.3	29.8±1.2	52.6	78.41
区	BL・H	74.7	63.8	34.0	16.6	3.2	29.8	50.1	77.35
	LB・H	75.1	63.6	34.0	18.2	3.4	29.8	51.3	77.30
	平均	75.0	63.7±1.7	34.0	17.8	3.3±0.4	29.8±1.1	51.0	77.31
区	BL・L	73.4	68.2	32.2	18.4	3.2	31.5	52.4	78.60
	LB・L	74.2	69.0	31.0	16.5	3.3	31.5	51.1	77.57
	平均	73.6	68.5±2.6	31.8	17.8	3.2±0.2	31.5±1.5	52.0	78.26

と体についてはW交配区はと体が長く肉色の淡いもの、肉しまりに乏しいものがみられ、H交配区はと体が短くと体幅があり、煮肉状でロースの小さいものが散見され、戻し雑種はと体が長く、ハムの肉張りがよく、と体幅に乏しく赤肉量の少ない傾向を示した。また、一代雑種は肉色、肉しまりがありロースが大きくと体の斉一性がみられた。L基準による検定成績判定方法による判定結果は戻し雑種が、27点、一代雑種24点、W交配区22点、H交配区が20点の順であった。

以上の成績からこの試験については勿論交配雄の能力差もあることながら一代雑種に比較して三元雑種は発育、飼料の利用性、と体および肉質等三元雑種の有利性は得られなかった。また戻し雑種は例数が少なく試験の信頼性に乏しいが、判定結果にみられるとおり一代雑種よりすぐれていた。しかし肉色赤肉量、保水性、脂肪の品質等についてかなり見劣りがみられた。なお、と体の斉一性については一代雑種より三元雑種、戻し雑種はバラツキが大きく、また供試した繁殖雌豚の品種ではBおよびBLを雌豚にした区がすべてよい傾向を示した。